

「市長と語ろう！」 in 西砂学習館【概要】

平成29年9月30日（土）

13時30分～15時

西砂学習館

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。毎年、私は市民の皆さんと1年に10回くらいタウンミーティングをやらせていただいております。地域の皆さんと、あるいは業界の皆さんと、あるいは高校生、いろいろなジャンルの方々と意見交換会をやらせていただいております。今年はその第1日目でございます。

皆さん、ご存じかと存じますけれども、27年から立川市の第4次の長期計画を発表いたしました。「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」ということで、今まで立川のまちは50年以上にわたりましてハードのまちづくりをやってきました。その象徴が立川駅南口の区画整備です。

区画整備というのは、従来、荒地や大規模な工場跡地でありますとか、あまり人家や店舗がないところでやってきた手法ですけれど、立川の場合では、日本で初めてと言われる駅前の繁華街、当時、区画整備が始まったときは北口よりもはるかに南口のほうが店舗もありましたし、役所や学校でありますとか、たくさんございました。人通りも非常に多かった場所を、将来のために区画整備し、50年かかりました。それ以降、立川駅南北を貫くモノレール、南口や特に北口の駅広場のデッキ、あるいは基地跡地の開発等、イケアを誘致するなど、まちづくりをやりました。

今、立川駅北口で残る4ヘクタールのみどり区域というのがあります。ヤギが十数頭いて、にぎわしてくれます。駅前の超一等地ですが、立飛がまず2,500人規模のコンサートホール、100室規模の超一級のホテルをつくる。多摩信用金庫の本店が、もう50年以上たっていてかなり老朽化しておりますので、4ヘクタールの地区の一番駅寄りのところに本店を建てるということでございます。かなりのレベルの美術館を併設してくれるということです。たましんは50年以上にわたりまして絵画の収集をしてきました。多摩地区の作家を集めて、毎年、展覧会をやっていますが、その中で市長賞でありますとか、あるいは会長賞、秀でた作品を数点買い上げてストックしています。ですから、日本でも有数の、多摩地区においては、たましんのコレクションに並ぶものはないというぐらいの美術品をストックしていますので、これらを少しずつ市民の皆さんにご披露いただけると、ますます多摩地区のにぎわいに手助けをしてもらえるようになると、大変期待をしているところでございます。来年早々に鉄入れ式をやりたいという立飛の社長からお話がございますので、もうオリンピックが始まる前にはおおむねでき上がるというスケジュールで、立川のまちが変わってまいります。

そうしますと、50年間にわたって立川のハードなまちづくりをやってきたのは、ほぼ立川駅周辺などはおしまいです。立川のまちがこれだけ大勢の人に来てもらっている、人集めができるようなまちになってきたところですよ。これを持続するためには何が必要かということになりますと、やはり人が安心して暮らせるまち、ソフトなまちづくりです。例え

ば子育てが安心してできるまちとか、あるいは高齢者が安心して生活ができるまち、医療が非常に発達をしている、こういうまちづくりを積極的に市として支援をしていくことこそが立川のまちなぎわいを継続できる大きな力になるということで、27年から始まりました、第4次の長期総合計画「にぎわいとやすらぎの交流都市」、この第一歩を踏み出してきているところでございます。

10年計画でございますので、途中でいろいろなことがあれば見直すということにもなりますけれども、その長期総合計画に従って、ソフトなまちづくりを目指しながら、立川のまちづくりをやってまいりたいと思います。市民の皆さんからよりたくさんのご意見をいただきながら、今後のまちづくりの参考にさせていただきたいと思っています。

今日は限られた時間でございますけれども、ぜひ皆さんからのご意見、頂戴できますようお願い申し上げます、冒頭のご挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

今、西砂の小規模開発が進んでいますが、大きな道の両方から10間、また南のほうから10間で、つながった道がなかなかできていません。北から南の道に行こうと思っても、遠回りして行かなくてはいけない場合があります。何とかできないでしょうか。

(市長)

大規模な開発というものは西砂ではほとんど見られませんけれども、小規模な開発ということで農地が2反歩とか5反歩程度、手放された方の土地がそれぞれということですが、これはまだ最終的にどのような形になるのか、全くわからないわけです。点在をしているものですから、つなげようにもその次の計画がわかりませんと、そういう道路をどこへどう引いていっていいかということは検討がつかないです。

都道でございますので、五日市街道の拡幅を東京都が計画は持っております。しかしながら、私が昨年確認したところによると、五日市街道の拡幅については後回しになるそうです。五日市街道の両側に家が張りついております。東京都の都市計画道路333号線という道路のほうが先になるという計画を、東京都から聞いています。

ですから、一番先に手がつけられる武蔵砂川の駅前北口の整備を始めています。駅前の直近のところはまだ地主さんとお話がついていないのですが、それ以外は全て北口にロータリーをつくっています。そのロータリーに接続するような形で333号線、この道路の築造も始まります。ほぼこの道路が五日市街道の補完道路としてバイパスのような形になるわけです。小平から来てずっと西砂の道路前の交差点のところを先に、東京都は手をつけるという計画で進んでいるところです。

(参加者)

33号線とかよく言いますね。一般の人は全然わかりません。広報にも何号線とかいろいろ書いてあるけれど、皆さんがわかるような呼び名にしてもらえたら身近にわかります。

ディベロッパーが適当に開発しているところ、小さな道路をつくっているところは、つい最近、古い水道管を張りかえる際、その道路が私道だったのですが、それは不動産屋さんが持っていました。ところが、その不動産屋さんはもう既に倒産しており、水道管の張りかえができなということが起きました。道路となっている私有地が少し何とかならないでしょうか。これは立川市だけの問題ではなく国の問題なのでありますが、その辺を考

ていただきたいと思います。

(市長)

まず番号でなくてはわからないというのは、東京都は東京都全体の道路をつくっていますので、逆に言うと都にとっては番号がないとわからないそうです。でき上がった後に、ニックネームをつけています。五日市街道は都道7号線となっていますが、ニックネームがついているからわかりやすい。でき上がった後にニックネームをつけて、地域の人がわかりやすい形になりますので、少し待っていただくしかないような気がします。

(参加者)

そのときに、五日市街道の北側とか書いてあれば、皆さんわかると思います。ただの33号線と書かれても、どこのことを言っているかわからないので、五日市街道と西武線の間だとか書いてほしいです。

(市長)

そういうこともありますので、意見交換会では地図を2枚張るようにしました。私が一生懸命口で言っても、皆さんがわかりにくい場面がありますので、地図を使うということにさせてもらっています。

(総合政策部長)

水道管の所有者の件ですが、例えば、今、盛んに話題になっております空き家もそうですが、登記簿で追い切れないことで困っている部分があると思います。やはり同じように登記等で追っていったところで、なかなか承諾をいただく方までたどり着かない、そういうケースなのか、あるいはたどり着いたけれども、その方が私は倒産したからという話になっているのか、わかりませんが、空き家と同じで私権の制限みたいなものがございまして、行政として手が出せるところというのが限られているところがあります。

(参加者)

自治会の防犯灯について、一番町には17灯の自治会管理の防犯灯があります。ところが、自治会の会員が減ってしまって、会員がいないようなエリアの防犯灯まで自治会の負担になっている。今年の3月の初めに担当課へお話しさせてもらって、公道になっている部分もあるから、そのエリアの一部については市の管理にすると内々のお話をもらいましたが、10月になっても遅々として全く進まない。何とか早く解決していただきたい。

(市長)

そのことは十分承知しています。防犯灯がいわゆる民間の方の照明で、街路灯が官庁の所有するところで、市として防犯灯がどこに何基あるかわかっていません。このほかに街路灯もあります。役所が管理していますから街路灯はわかります。役所で街路灯を一本にまとめ、LED化するための調査に入っています。全体の計画の中で位置づけが全然できない中で、1つの自治会だけというわけにいかないのです。調査が終わったら立川市全域の計画をつくり、そしてLED化をしていきたいと考えています。少し時間がかかってしまうかもしれませんが、立川全体の街路灯を整備していきたいと考えています。

(参加者)

LED化とかそういうことはいいですが、とりあえず当面の防犯灯を解決してほしいと思います。

(総合政策部長)

具体的に道路課、工事課にお話しされたことについては、もう1回、私どものほうからもお伝えします。

(参加者)

資料に民間保育所運営の予算で、待機児童の解除対策を掲げていると思います。我々が小さいときには、学校に入る前に幼稚園や保育園に入った時代で、今、生活環境も大分変わって、結婚して会社の産休制度も整ってきているということで、共稼ぎが多く、子供が生まれたらすぐ会社復帰ということで、ゼロ歳から1歳の待機児童が一番多いです。西砂町でも、七中のそばにまた保育所ができるという話も聞いております。現状の西砂、一番町界隈の待機児童の対策関係、この近辺の状況をお聞かせいただければと思います。

(市長)

待機児童に関しては、現在130人程度です。来年の4月には、既存の保育園に定員増を、あるいは臨時の保育園の分園をつくる予定です。そのほかに企業保育として企業の社員の子供たちをそこで預かる保育所も準備が進められています。日野にお住まいの方が立川へ連れてきて子供を預けることになると、立川の待機児が減るといふわけにはいかないの、企業内保育所は正式な数字を皆さんの前で公式に申し上げるわけにはいきません。

現在、待機児童が約130人ですから、計算上は実はゼロになるはずでした。実は去年もそうでした。140人ほどの待機児童で定員を150人ほど増やし、私は胸を張って、今年4月には待機児童ゼロになりますよと言ったら、その後、逆に増えてしまいました。

(企画政策課長)

30年4月に向けて、西砂町になすび保育園を予定しておりまして、そちらは定員120人。上砂町にきらめきの森保育園が30年4月に開園を予定しておりまして、定員80人を予定していると聞いています。

(参加者)

実は震災対策で立川は活断層がすぐ近くを通過しているということで、これから何十年後には確実になんていうことを言われると、実際に地震が起きたとき、どうしたらいいのか不安に思うところです。東日本大震災のときには帰宅困難者などが出まして、それ以降、公共施設を開放して第一次避難所といいますか、帰宅までの数日間をそこで待機できるような形を考えられているところもあると思います。立川市として、自宅にいる人、帰宅困難者、通勤者、それぞれどのような対策を考えられているのか、または主な避難所としてどういうところを想定されているのかを伺いたいです。

(市長)

まず震災対策として、一応、立川断層はあるというお話がありましたが、東大の地震研究所の調査では、立川の行政区域の中を通過している断層は確認できませんでした。しかし、首都直下型地震はそう遠くない将来に起こる可能性はありますので、それを前提にいろいろな災害対策をやっております。

まず、1番は避難所の問題です。避難所には、第一次避難所ということで市内の小中学校29校あります。その避難所の開閉は、小中学校から歩きで10分以内に住んでいる職員を4人選んであります。その4人に鍵を渡して、いざというときには10分以内に鍵を持って

避難所の扉を開ける対策をやっています。その職員には体育館や教室に来ていただいて、夜を明かしたりしていただくということをまずやっております。そのほかに、トイレについてはマンホールトイレも用意してあります。

食料については自治会にお願いして物置にしまう、一番大きいのは東京都の食糧倉庫が市役所の南側にあるのですが、そこに莫大な備蓄をしております、2日間ぐらいの食料はそこにしまっております。

帰宅困難者の場合は、おそらく市民は少ないだろうと思っています。帰宅困難者、駅の周辺に集まるのは1万5,000人とも言われています。今、立川はデパートや駅の近辺の会社などをお願いをして約9,000人分の避難所を確保できることになっています。

それから、米屋の組合、森永乳業、赤帽、接骨師会、商工会議所、石油商業協同組合、シントミフーズ、お弁当屋、高島屋、三越、伊勢丹、いなげや、ルミネ、イケアとか、このような会社にも、いざというときには食料ないし一夜の宿を貸すという連携協定を結ばせてもらっています。

(参加者)

そういうものがふだんの日常生活の中でアピールされていないような気がします。いざというときには、ここに行くとかこういうサービスを受けられますみたいなものを、時々、広報等に載せていただくと市民も安心します。

(市長)

自治会と連携した避難訓練も毎年一回必ずやっています。ですから、自治会に入っていない方などは連絡が漏れてしまうかもしれません。

(参加者)

今の多摩大橋通りの天王橋の交差点の渋滞のおかげで、うちの自治会の中の道路が抜け道になってしまっています。非常に小さな子が増えてきているところで、交通の災害が危惧されているということもございますので、見通しをお聞かせいただければと思います。

(市長)

五日市街道の上り、天王橋交差点のところの右折レーンを開通させ、ここでの渋滞がきれいに解消されたという話を聞いております。ただ、その抜け道利用については、西から来て左折する車が結構あるようです。警察にもまた改めて申し入れをしていきたいと思っております。

(参加者)

空き地の問題です。これから枯れ草が増えてくるという状態でして、去年、消防にお願いをして防災訓練という名前のもとで延焼のシミュレーションをさせていただきました。空き地の本当の持ち主を調べることができませんので、空き家と同じように、空き地についても何か対策をお願いできないでしょうか。

(市長)

この件に関しましては、特定空家等の適正管理に関する条例をつくりました。例えば庭木が手入れされていない状態になっている場合には、職権で刈るという対応ができるというようにしてあります。

(総合政策部長)

生活安全課か環境対策課というのがございますので、草木の繁茂やごみの問題ということで、空き家、空き地などでご迷惑がかかっているようであれば、ご連絡いただければ担当で現場を見させていただきます。

(参加者)

松中小学校で老人クラブが夏の夜に行事をやるのですが、冷房がないので暑いです。体育館の冷房はどうなっていますか。できれば冷房を入れて、老人も快適に運動ができるようにお願いしたいです。

(市長)

市内の小中学校、普通教室で全て冷暖房が入れ終わったところです。その次に特別教室に冷暖房を入れます。ですから、体育館はそのあとの対応でない手が回らないということで、それからの課題とさせていただきます。

(参加者)

公共交通機関についての件です。くるりんバスを運用されていますが、近所の定期的なバスがすごく減ってしまっています。利用者が少ないからだと思います。ところが、砂川の三番まで行くと、1時間に10本ぐらいバスが走っています。遠くまで行く必要はないので、たくさん車が走っているところまでをピストンで定期的に回っていただけるような公共の交通機関というのは考えられないのでしょうか。

(市長)

くるりんバスは、去年ルートの変更をしまして、圧倒的に乗客が増えたルートと、圧倒的に乗客が減ってしまったルートと二極に分かれてしまいました。再度、ルートの変更を前提として調査に入っていますので、その中で今のお話も反映させていきたいと思っています。

(参加者)

首都直下地震を想定して避難所を小学校や中学校とおっしゃっていたと思いますが、地震が起きて避難を開始し、一番家から近い避難所に向かったとします。例えばもうこれ以上、人が増えると食料や避難場所もないから、別のところへ移っていただく場合があったとします。その場合、ご高齢の方や足腰が弱い方は移動が大変です。あらかじめ避難所の状況、例えばこの避難所はまだ全然人が入れますとか、ここはもうそろそろ限界という状況を、立川市のホームページで公開する、ネットの使い方がわからない方に向けて町内放送を流す対応などは想定されていますでしょうか。

(市長)

一次避難所と二次避難所の2つの分け方があります。地震が来てまず逃げるのは一次避難所。一次避難所がいっぱいになったら二次避難所、要するに公共施設、そこへ回ってくださいという形になります。そういうときに、あなたみたいな元気な人が四、五人のお年寄りの道案内をしてもらおうとか、そういうことを各一次避難所でやっていただきたいというマニュアルもつくってあります。

(参加者)

私は通学のときに昭島駅を使っていて、西砂小学校の隣の道を通ります。朝、小学校に通っている児童の方と、高校に通う自転車の方と昭島駅に向かう自転車と車で、道がとても危ないです。自転車道など対策があったら教えていただきたいです。

(総合政策部長)

特に今のところ、幅員を広げる話はないです。線路を越えると昭島の市域です。昭島側に入るとナビマークといって、自転車については車道を走りなさいという形でマークがついていると思います。基本的には歩車道分離ということで、昭島側は、歩行者は歩道を歩いてく、自転車については車道側を走るという整理ができています。しかし、車道自体もそれほど広くないので、自転車で走ってもかなり危険なことを感じるということもございます。ほんとうは全体的に道路幅、幅員を広げながら歩道、自転車道、車道を分離した方が良いです。

(参加者)

先日、市役所で行われた認知症の方のレベルアップ講座というのに出させていただいてとても良かったです。認知症の方のいわゆるオレンジリングの研修を受けた後の人たちが受ける講座でした。高齢化社会がこれから進んでいく中で貴重なことだと思って、とても役に立ちました。これからもぜひ続けてやっていただきたいと思っております。

(市長)

どうもありがとうございます。ぜひ今後も続けてください。

(参加者)

西砂町の方が「やすらぎのまち」となっていますが、畑がまちになってしまって、住宅が増えて「やすらぎ」でなくなっていると思います。「やすらぎ」に対して、今度立飛のほうに美術館とかができるというのを聞きましたが、こちらのほうにも、運動ができるとかにぎわいができる施設が欲しいなと思います。

(市長)

「にぎわいとやすらぎ」というのは、私のイメージの中では「にぎわい」は立川駅周辺部分だけです。「やすらぎ」というのは玉川上水をイメージして言葉を思いつきました。日々、この周りを散策してのんびりされている方がたくさんいます。もし立川にまちの東西を走る玉川上水がなかったらと思うとぞっとします。まさに水と緑です。忙しい1日の仕事から帰ってきて、これを見ながら憩える我が家へ帰るというイメージ、精神的な思いというのはそういうことをイメージして「にぎわいとやすらぎ」としています。

立川駅周辺500メートル以内くらいの「にぎわい」をこの地域へ移動することは、考えられません。バスで二、三十分行けば体育館でも何でもあるわけですから、そのほうが、まちの中で住んでいるということを考えますと、私は二極化を進めたほうが住みやすいまちになると思います。ぜひご理解いただきたい。

(参加者)

西武立川駅から10分歩かないところで、6月ごろに蛍が飛び交うところがあります。周りの駅前開発も進みまして、大分便利になりましたが、その反面、蛍がいなくなると寂しいなという気持ちがあります。こんな駅近で蛍が出るような環境というのはなかなか都

心ではないので、この環境の保全というのは考慮していただきたいなと思います。

(市長)

緑あふれる環境というのはもう理屈も何もなく心を癒やしてくれます。私自身も街路樹の剪定には非常に気を使っています。緑の保護、育成に対してはナーバスな気持ちを持ちながらやっていくつもりですし、ぜひおっしゃったようなお気持ちも大切にして、それを広げていっていただければと思っています。

(参加者)

2年前に他県から立川市へ来ました。立川に来る前は、立川のイメージは戦後の米軍のイメージというか、あまりいいイメージは持っていなかったのですが、こちらへ来て、ハードの施設が大分整って、隣の八王子を追い越してしまうみたいな感じ、表面的にはそう思いました。これからはソフトな部分ということをおっしゃられましたが、2年住んでみて非常に文化教養に力を入れていると感じ、頼もしく思っています。

それから、行政が市民に寄り添ってということは今まで住んでいたところではなかったものですから、市長さんが直接、一人一人の方に耳を傾けて真剣に対策をお話しなさっているのを聞いて、とても感動しております。私は立川に来てよかったなと思っています。

立川は意外と家賃や地代が高いように思います。もっと家賃が安ければ、行政でバックアップができれば、将来、若い人がどんどん住みいいような環境になると思います。

とても市全体、市の職員の方も住民に寄り添ってみんなで作り上げていきたいというのは、市役所に行って伺いましたし、こういう会合もそうですけれども、他県から来て初めて立川を見て私の感想です。ありがとうございました。

(市長)

どうもありがとうございました。

おかげさまで立川市の人口はまだ増えています。立川駅の周辺では、ワンルームマンションが増えています。おそらく寝に帰ってくるだけのワンルームマンションが、駅から近いところにたくさんできています。これはもうやむを得ないでしょう。まちの繁栄と土地の値段が上がるというのは比例してくるのでなかなか難しいですけれども、その分、ある程度、公共交通や道路網の整備をしていくことによって、住みよいまちになっていくと思っています。

(参加者)

6年前に西武立川駅が改修されて、三、四年の間にマンションができ、戸建ての住宅が150棟等、西砂小学校も教室が増えて、人口が増えているのは確かです。それと同時に、「やすらぎ」ということ言えば、上水を起点したところではまさに住みよいかと思いますが、それに伴って、防犯関係においては、昨年度に西砂小学校、それから松中小学校の付近に防犯カメラが設置されています。「にぎわい」のあるところでは、当然ハード面に関しては完了したということで、「やすらぎ」の部分では、防犯関係で、市の境目を起点に、駅前交番のような、皆さんが気軽に相談に乗れるような拠点をつくっていただければと思います。

(市長)

確かに西武立川駅の南北ができて、夜中まで人通りがあるようになりまして、防犯には

一層気をつけなくてはならない。人を配置するような施設は時間がかかりますので、ある面では防犯カメラのようなものをしっかりと設置していくのがいいと思います。週に二、三回、立川警察から市所有の防犯カメラの閲覧をさせてくれという申請が出てきます。それだけ防犯カメラは威力があると思っています。

3 閉会の挨拶

(市長)

私の家は西砂町です。いつかは西砂が住みやすい安心なまちになってほしいなという思いをしながらずっと生きてきましたし、市会議員を3期、収入役を3期12年やらせていただき、今、市長として10年たちました。少しでも皆さんが安全に安心して暮らしていただけるためのお手伝いができるということを、無上の喜びとしているところでございます。

今日、皆さんからいろいろなお話を聞いて、全然気がつかなかったようなことまで目を覚まさせられたなという思いを強く感じております。もっと住みやすい立川のまちにするために、ぜひ一緒に前に進んでいきたいなと感じておりました。今日はどうもありがとうございました。